

令和 7 年度研究推進計画

学校名 江田島市立中町小学校校長名 上本 真理

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題 「自ら考え判断し、生き生きと表現する児童の育成」
～自己調整力を高める学習指導を通して～

(2) 主題設定の理由

昨年度は、国語科・算数科の見方・考え方を働かせることができる授業改善を進めてきた。知識・技能の定着、向上は見られるが、自分で考え、判断する思考力・判断力は知識・技能と比べて定着しているとはいえない。また、実際の授業では、発信時の状況や発信相手を想定した効果的な表現方法の工夫を行ってきた。児童アンケートの結果から、「自分の考えを場面や状況に合わせて分かりやすく相手に伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫している。」と回答する児童は 80% である一方、失敗や恥ずかしさ、間違ふことへの不安を感じている児童も依然として多い。

このことから、「自ら考え判断し、生き生きと表現する児童」にとって必要なのは、自分で学習を進めていく力であると考え。そのためには、自ら学ぼうとする意欲をもち、学びを調整する方法を身につけられるような授業づくりを行う必要があると考え、自己調整力を高める学習指導を通して主題に迫っていく。

本研究における「自己調整力」とは、学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整していくために必要な力であり、1年生から6年生までの教育活動を通して育てていくものである。学習の進め方を自己調整することは「学びに向かう力、人間性等」に深く関わる。低学年段階から、児童同士が試行錯誤する学びを大切にするとともに、中学年以降は学習における選択の幅をより広げ、児童自身が自己評価を基に自分に合った選択をしながら学びを進めることができるよう支援していく。

自己調整力を育てるために以下3点について進めていく。

① 学習過程の設定

探究的な学習の流れ (AAR サイクル) によって、学習過程を「見通し場面」「行動場面」「振り返り場面」の3つに分けて研究を進める。どの場面でどのような自己調整力を発揮させるのか、それぞれの場面において、どのような手立てが効果的であるかを考える。また、児童と共有することで、自分で学びを進めていく際の一助となると考える。

② 単元や題材構成と手立て

一単位時間の小さな探究のサイクルは単元や題材の流れの中で何度も循環していく。教師は、教示 (モデル例示) から直接的支援 (問いかけなど)、間接的支援 (掲示物など) へと手立てを変化させていく。

③ 実態把握及び検証

授業づくりを行う際には、児童の実態把握が欠かせない。自己調整力を発揮できるよう支援するためには、教師の観察や質問紙調査を複数回実施し、その変化を分析する。これにより、単元や題材の構成、および支援方法の効果を検証する。

令和6年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対して肯定的な児童が 71.4% と、広島県や全国と比べてみても、およそ 10 ポイントも低い。また、「できている」と答えた児童の割合も広島県や全国と比べても 3 割程度となっている。さらに、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問では、「当てはまる」と回答した割合が広島県や全国の 5 割にとどまった。この結果から、児童が自ら学び方を考え、工夫する力に課題があることがうかがえる。

そこで、児童が自己調整力を高めるための支援が必要であると考え。具体的には、「学習方法を選択する力」や「問題を解決する力」の育成が不可欠である。また、実際の授業観察を通じて、発信時の状況や発信相手を意識した効果的な表現方法の工夫が十分でない点が課題として挙げられる。その背景には、目的に合った表現をするための語彙力の不足が影響していると考えられる。

これらのことから、今年度は、自己調整力を高める学習指導を通して、自ら考え判断し、生き生きと表現する児童の育成をする。

(3) 研究仮説

児童の様々な学習活動において、目標に向けて意欲を高めて自ら活動に向かい、自身の学習過程全体を振り返りながら、適切な方法を選択して、「見通しー行動ー振り返り」のAARサイクルを回し続けると、自ら考え、判断し生き生きと表現する児童が育つであろう。

(4) 研究内容

○自己調整力を高める授業改善

AARサイクル（「見通しの場面」「行動場面」「振り返り場面」）による授業づくりを行い、児童の自己調整力の高まりを目指す。

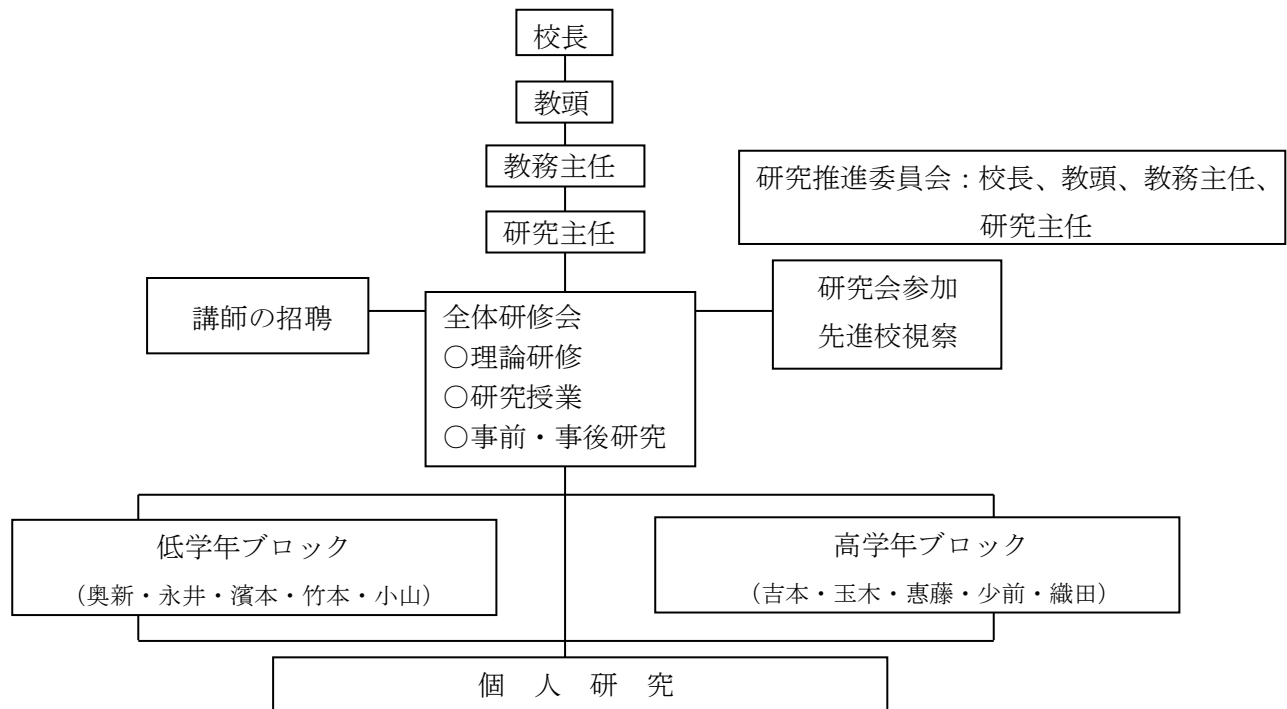
○語彙力の向上

MIMアセスメントを活用した児童の実態の見取りや、NIEや家庭学習の見直しを行い、語彙力を高めた個別最適な学びを実現し、表現力を伸ばす。

2 検証計画

研究内容	検証の視点	達成目標
自己調整力を高める授業改善	・AARサイクル（「見通しの場面」「行動場面」「振り返り場面」）による授業作り ・単元末と学期末テストの平均値（思考力・判断力・表現力）における同一集団の変容 ・見通しをもった計画表や振り返りシートの活用（質問紙調査）	・国語科のテスト平均値が80点以上の児童の割合が85%以上、 ・算数科のテスト平均値が80点以上の児童の割合80%以上 ・自己調整力の高まりがある児童90%以上（児童質問紙調査）
語彙力の向上	・NIEで言葉の知識量の増加 ・MIMを継続的に活用 ・帯タイムや家庭学習での継続的な学習 ・学期末テストの言葉のテストを分析して交流（誤り分析） ・MIMを活用した児童の見取り ・NIEの推進	・40点以上の児童割合 80%以上 ・MIMアセスメントの結果向上（低学年）

3 研究組織図



・研究推進委員会・・・研究計画の立案と各種提案の検討を行う。

4 校内研修計画

月		研究内容	月		研究内容
4	4 (金)	今年度の研究について	9	4 (木)	ブロック研 (低・高) 研究の進捗状況の確認 ワークシートや手立て等の準備
	17 (木)	全国学力・学習状況調査		11 (木)	研究授業③ (5年)
	19 (土)	校内研修 理論研修 ・自己調整力と5つの力 ・AARサイクルの授業づくり ・授業のスタンダード ・身に付けさせたい資質・能力 ・自己調整力についてのアンケート (4月末までに)		25 (木)	指導案検討⑤、⑥
5	8 (木)	指導案検討①	10	8 (水)	研究授業④ (2年)
	15 (木)	ブロック研 (低・高) 理論研修 (自己調整力アンケート結果の分析)		26 (日)	みのり学習発表会
	29 (木)	研究授業① (6年)		13 (木)	研究授業⑤ (4年)
6	5 (木)	指導案検討②	11	27 (木)	研究授業⑥ (1年)
	19 (木)	ブロック研 (低・高) 理論研修		12	9日～ 19日?
	26 (木)	研究授業② (3年)	1	8 (木)	指導案検討⑥、⑦
7 (月)～ 11日(金)	意識調査① (校内児童アンケート)	14 (水)～ 23 (金)		意識調査② (校内児童アンケート)	
8	6 (水)	理論研修 (さとうみ学習)	2	27 (火)	研究授業⑦ (ひまわり) ※別時間で実施
	24 (日)	全体研修・指導案検討 (③、④、⑤、⑥)		上旬	標準学力調査分析
			5 (木)	ブロック研 (低・高) 今年度の振り返り	
				19 (木)	研究のまとめ 次年度に向けて